



作曲家・舞台音楽家

宮川 彬良さん

みやがわ・あきら●1961年東京生まれ。劇団四季、蛭川幸雄演出作品など数々の舞台音楽を手がける。95年に大阪フィル・ポップス・コンサートの音楽監督に就任。98年、震災からの心の復興をめざし、宝塚ベガ・ホールを拠点に活動を開始した「宮川彬良とアンサンブル・ベガ」も大好評。2004年には「マツケンサンバII」が大ブレイク。NHK教育テレビ「クインテット」出演中。家族はバイオリニストの妻と3人の子

子どもと一緒に音楽で楽しく

5月6日、宝塚のベガ・ホールで行われた「宮川彬良とアンサンブル・ベガ」の特別演奏会は、不思議な熱気と期待に包まれていた。アンサンブル・ベガが初めて企画した子ども音楽コンテスト「きみはてんさい! あしたのうた」の結果発表と世界初演（―）を兼ねていたからだ。子どもたちから募集した「うた」を宮川さんが曲にして、ステージで演奏するというユニークな試み。宮川さん、子どもたちから集まった「うた」の審査は楽しかったですか？

募集期間は今年初めから約1カ月半。兵庫県内の子どもに限るという条件だったにもかかわらず、90組の作品が集まった。「鼻歌から伴奏付きのものまで。全部聞くのにまる2日かかりました。大人では考えつかない熱気と才気にあふれる作品ぞろいでしたよ」と宮川さん。技術的な優劣ではない。子どもが生活の中で自由に

作って歌っている「原石」を発掘しようとした。「最初はね、面白いけど、できるんだろうか悩みました。子どもたちの「うた」を、大人の基準で選んでいいのかわからない。責任重大ですから、それぞれ切腹する思いで『これはドかな? シかな?』と音を特定しながら丁寧に聞きこみました」。最終的には、宮川さんが特に気に入った8組の曲を譜面に起こし、編曲して発表しました。「僕たちもやっていて楽しかったし、一石を投じられたのかな」

「耳人間」になって音と遊ぶと楽しい!

この日、会場を埋めた満員の聴衆は、赤ちゃんを抱いたお母さんやお父さん、幼稚園児、小学生からおじいちゃん、おばあちゃんまで実に多彩。演奏に赤ちゃんの泣き声やハモっても、演奏家たちは全く動じることはなかった。「うちのメンバーはホルンの音楽家だから、泣き声も風の音も自然の音楽だと楽しんでましたね。楽器って、重力に逆らったらい音は出せません。自然の摂理、天然の方がどれほど大切か、分かっているんです」。舞台音楽の仕事も多い宮川さんは、人間には「耳人間」と「目人間」の2通りがあるという。

「子どもの鼻を押しながらブーブー、」と「ごちよごちよ」ってすすめる時は、子どもをギターのように抱きかかえジャンジャラやる。もう、よじれて笑います。子どもは音に敏感だから、すっごく喜びますよ」

子どもが音楽と出合いをするには、大人がいいと感じる曲と一緒に聴くだけでいいという。「最近では、無理にでも童謡を聴かせたいなど思っています。子どもの頃、幼稚園で歌って楽しかったでしょ。たくさん聴いて頭に焼き付けると、大人になって意味が分かったときに感動する。それは音楽に触れていない人の感動とは比べものにならないくらい感動ですよ」

朝日ファミリー

asahi family

2007年6月8日 1427号

発行所
朝日新聞グループ
株式会社 アサヒ・ファミリー・ニュース社
〒530-8255
大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06(6201)3328
<http://asahi-family.com>

©アサヒ・ファミリー・ニュース社2007

2暮らし彩る 3音楽がここにある

■「きみはてんさい! あしたのうた」初演リポートと、童謡や唱歌にまつわる思い出やエピソードを集め、その良さを子どもたちに伝えようとする試みを紹介します

■春山満の目からウロコ② 「団塊」って何だ!?

4 5 トピック

■ショッピングニュース フレンテ西宮
■内山明玉さんの占い
■街を恋う 神戸・灘浜
■プレゼント ■おおきくなれ

6 7 8 地域/スタディー

■学校へGOOOOO! テーピング技術学ぶ高校生
■民間運営で1年、芦屋市立美術博物館は

9 10 11 カルチャー/地域

■名品を訪ねて ■おでかけ京阪神
■地域ミニニュース ■E⇄R

12 くらし

■私の朝ごはん 日本そばを粹に
■身心(からだ ことろ) 糖尿病の食事療法

6月15日付でEXTRA+発行
兵庫県立芸術文化センターの特集号です

7月6日号は創刊30周年特別編集号

配布部数=214,710部(日本ABC協会報告予定部数)
配布エリア=西宮市・芦屋市・宝塚市西部・神戸市東灘区・尼崎市・伊丹市

JAFNA 日本生活情報紙協会加盟紙
<http://www.jafna.or.jp>